

精密検査受診率の向上について

いただいたご意見のまとめ

精密検査に関する情報・理解の不足

精密検査に対する不安・恐怖・羞恥心

精密検査にかかる時間・予約のとりにくさ

精密検査に係る費用

医療機関へのアクセス

運用面における課題（市町村）

運用面における課題（検診機関・精検機関）

職域検診における課題

※詳細は資料 1 - 2 のとおり

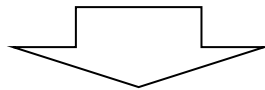
精検受診率向上に向けた取組みについて

精密検査に対する不安・恐怖・羞恥心

精密検査にかかる時間

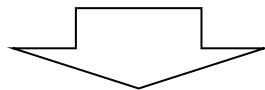
(受診率が向上しない理由としていただいたご意見)

- 羞恥心を伴うものがあり、受診に抵抗がある
- 以前に受けた内視鏡検査の痛みが強かったため、受診したくない
- 日々の生活が忙しく、精密検査を受ける時間がない



(対応策としていただいたご意見)

- 乳がん、子宮がんは女性医師による検診の実施
- 日曜日や祝日での精密検査の提供



(具体的な対応策)

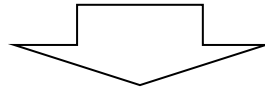
- 痛みを緩和する検査方法、女性医師のいる精検機関、土日に実施している精検機関などの現状を把握し、一覧表の表記を検討

精検受診率向上に向けた取組みについて

運用面に関する課題

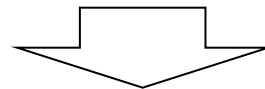
(受診率が向上しない理由としていただいたご意見)

- 精検結果の返送に時間を要する
- 受診者が精検依頼書を持参しても、精検機関が返信してくれない
- 精検の受診勧奨をしていない検診機関がある
- 医療機関の担当者が追跡調査について知らない



(対応策としていただいたご意見)

- 精検受診調査をわかりやすい様式に見直し、返信しやすいよう工夫
- 検診に対する理解を深めること
- 全ての検診機関が集まり、検診機関として行うべき受診率向上策を検討する



(具体的な対応策)

- 市町村・精検機関と共に、返信しやすい精密検査結果報告書について検討
- 市町村・検診機関が取り組んでいる好事例を共有
- 精検機関を対象とした説明会を開催し、統一運用の制度を周知
- 検診機関ごとの精検受診状況、精検機関からの返信状況等の分析

ロジックモデルの修正

新たな取組みについて、進捗管理できるよう次のとおりロジックモデルを修正する

山梨県がん対策推進計画（第4次）ロジックモデル

○1 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

（2）がんの2次予防（がん検診）

施策	施策の主体	アウトプット指標	策定時	目標
がん検診の県下統一運用の実施	県	統一運用を導入したがん検診の数	1検診 (R5年度)	5検診 (R11年度)
山梨県生活習慣病検診管理指導協議会による指導・助言の実施	県	山梨県生活習慣病検診管理指導協議会各部会の開催回数	3回 (R5年度)	現状維持
検診機関・精検医療機関を対象とした研修会・説明会の開催	県 市町村	研修会・説明会の開催回数	—	1回
要精密検査結果を把握する取組みの推進	市町村 検診機関	—	—	—



中間アウトカム	指標	策定時	目標
精密検査受診率の向上	検診受診率	(R3年度)	90%
	(胃 X線)	78.9%	
	(胃 内視鏡)	72.9%	
	(大腸)	65.4%	
	(肺)	80.2%	
	(乳房 (女性))	83.3%	
	(子宮頸部)	73.0%	

来年度以降の協議会においては、分野を絞って課題と取り組むべき施策について協議を行い、協議結果を施策に落とし込みながらロジックモデルを完成させていく作業を繰り返していきたい。